

# 日本地域コンテンツ大賞2024 授賞式



主催 一般社団法人日本地域コンテンツ振興協会

後援 内閣府／外務省／経済産業省／農林水産省  
観光庁／全国農業協同組合連合会  
公益社団法人 日本観光振興協会

協賛 Kambara Art Studio株式会社  
神原インターナショナル株式会社  
神原ヘルスブリッジ株式会社  
総合商研株式会社

授賞式 2024年10月28日（月）ハイブリッド式で開催

審査員 【特別審査員】

八木 貴弘氏 内閣府 地方創生推進事務局  
参事官

打田 剛氏 国土交通省 観光庁  
観光地域振興部 観光資源課  
文化・歴史資源活用推進室 室長

隈 研吾氏 建築家  
東京大学特別教授・名誉教授

【審査員】

坂井 滋和氏 早稲田大学 名誉教授

富川 淳子氏 公益財団法人大宅壮一文庫理事  
元跡見学園女子大学文学部教授

村上 旭氏 公益社団法人日本観光振興協会  
総務企画グループ 総務担当部長

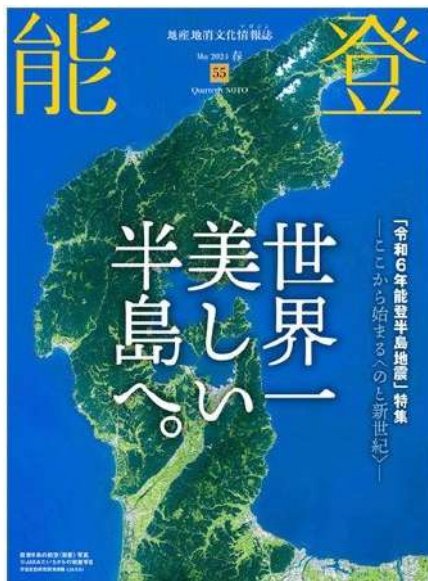
古川 一郎氏 一橋大学名誉教授  
武蔵野大学経営学部 学部長 教授  
日本マーケティング学会 フェロー

藤丸 順子氏 一般社団法人日本地域コンテンツ振興協会  
専務理事

表彰部門 大賞 ／ 内閣府地方創生推進事務局長賞  
観光庁長官賞 ／ 隈研吾特別賞 ／ 理事長賞  
企業誌部門 ／ ライフスタイル部門  
MIE (Magazine in Education) 部門 ／ 審査員奨励賞  
アニメ・ゲーム部門 ／ デジタル部門

## 地産地消文化情報誌「能登」

能登編集部



## 媒体社 PRコメント

今年の正月に起きた能登半島地震。なかなか復興が進まないなかで編集長である私が住職を務める寺も崩壊し、再建はしないことに決めました。一方、まわりの方々から能登編集部に心配の声や応援メッセージがたくさん寄せられ、雑誌の方は継続することを決めました。復興記念号は、この能登半島地震の記録をしっかりと記憶にとどめ、今後の災害防止に役立てたいとジャーナリカルな視点での大特集といたしました。

石川県はかつて北部の半島エリアの「能登國」と、南部の「加賀國」に分かれていました。能登國の歴史は加賀國よりも古く、今から約1300年前に独立した歴史を有します。2010年秋、独自の歴史や民俗、文化が今も色濃く残る能登の魅力、人や食、歴史や文化などを通して、能登の内外に伝えることで、一人でも多くの人に能登を訪れてもらいたい、そんな願いを込めて創刊しました。今年夏号では、近年目立つ能登への移住者（ターン・Uターン）を特集。移住者たちには、従来から能登に住む人たちの常識では考えられない発想や価値観があり、その暮らしぶりや考え方から何か大切なヒントを得ることができるように感じます。特集では彼らを通して、高齢化と人口減少に悩む能登の、これからの可能性を探りました。

## 審査会コメント

地元で脱サラ後にお寺の住職となり、新聞社でのサラリーマン時代のノウハウを活かして本誌を2010年に企画創刊。創刊以来季刊誌として継続して発行。

特集、連載記事共にクオリティの高いコンテンツで読み応え十分。特に写真のレベル、写真の見せ方に優れている点を高く評価して、2023年の本アワードで特集「能登に泊ろう！」で隈研吾特別賞を受賞した。

その能登は、年明け元旦に発生した能登半島地震により街の至る所で大災害の被害を受けた。雑誌「能登」の経塚編集長が住職を務めるお寺も半壊し、再興はしないという。そんな失意の中、地元をはじめ多くの読者の皆さんから雑誌発行に対する応援メッセージが沢山届き、震災後に発行した号の特集は「能登半島地震」。審査員の皆さんからは、雑誌ならではのカラー写真をフル活用した紙面から、震災の悲惨な様子が手に取るように、直感的に読み取れるとのコメントが多かった。また、記録性があり保存すべき1冊であるとの高い評価で2024の大賞を受賞。

## 西遊記VR

### SKY LIMIT ENTERTAINMENT



#### ※理事長賞とは

今年から設けた「理事長賞」とは、当協会の理事長である神原未綺が、グローバルな視点で世界のコンテンツの中から選出する賞。日本の地域コンテンツを世界に発信するためのヒントとなり、当協会がその活動を支援することが目的である。

#### 作品介绍

2022年9月に上海ディズニーリゾート内の商業施設「ディズニータウン」に、「西遊記」の世界に没入しながらXR（クロスリアリティ）を体験できる「SoReal超体空間（SoReal Super Experience Space）」がオープン。世界のディズニーリゾートで初の大型XR施設となる。SoReal超体空間を手がけたのが、Skylimit Entertainment でありディズニーと共同開発した娯楽施設名のSoRealは同社のVRブランド。SKY LIMIT ENTERTAINMENTは、XR（拡張現実）技術を活用した体験型エンターテインメントや教育コンテンツを提供する企業で、世界的企業であるインテルも出資し、アメリカのクワンタム(Quantum Corporation)とも業務提携している企業である。特に、5GとXRの融合による大規模な仮想空間プロジェクトや、文化・科学の教育向けコンテンツに注力しており、観光やエンタメ業界でも注目されている。

#### 理事長コメント

この作品は、XRコンテンツ制作において世界でも注目されディズニーとも業務提携を結んでいるグローバル企業「SKYLIMITENTERTAINMENT」の作品である。

ディズニーが自ら制作したコンテンツ以外の作品をディズニーランド敷地内で使用する例は今までに無く、エンターテインメントの世界でも注目されている。これを制作したSKYLIMITENTERTAINMENTは、アメリカのインテルが出資しており、クワンタムとも業務提携している。

中国で非常に高品質のXRコンテンツを低コストで量産できるという点が際立っている。近年、アップル社のメガネなども認知されて、XR技術は身近なものとなってきた。この技術を活用し、インバウンド観光客が日本の東京や京都以外の地方の魅力を、来日前に体験できるようなコンテンツを提供することができれば、観光収益の増加だけでなく、観光客の地方分散にも役立つと思われる。

AR、VR、XR技術は、単なる映像体験を超えて、地域の魅力を世界に伝える強力なツールである。当協会はこれからも日本各地のコンテンツを世界へ届けるため、こうした技術の活用を推進したいと計画しており、第1回目の理事長賞に選出した。

## とさちょうものがたり ZINE

土佐町役場



### 媒体社 PRコメント

高知県土佐町の美しさを伝える目的で作っている雑誌です。風景・暮らし・人々の美しさ、長い歴史の中で積み上げられた環境のこと。

自治体発行の印刷物といえば美味しいお店・泊まる宿・観光名所などの情報発信が主ですが、そういったいわゆる「情報」は世に溢れお腹いっぱいではないでしょうか？

「とさちょうものがたり」は、そういった「情報」より深い層にある「美しさ」などの感覚を伝える媒体として制作しています。

Yahoo! ニュース 「これ以上、情報はいらない。町の広報誌が雇用、売上、つながりを生む起点に」

<https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/9a52a03d8be11baa5a53610229770547eac049db>

「とさちょうものがたり」は、町やその情報を「紹介する」ということのみではなく、クリエイティブの力を使い、オリジナルTシャツなどの衣類・絵本や雑貨などを制作販売しています。その制作過程のほとんどには地域の障害者支援施設の作業を組み込み、障害のある方々のお仕事を生み出しています。

そういったユニークで優しい取り組みをアピールすること自体が、従来の広告宣伝とは異なったPRになっていると考えています。

### 審査会コメント

自治体部門のエントリー作品も、いずれも地域の魅力を深掘りし、地域への愛情を持って情報を発信する素晴らしい作品揃いでした。

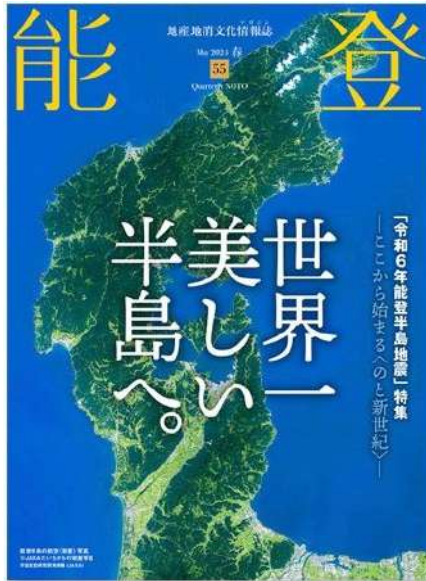
高知県土佐町の「とさちょうものがたり ZINE」は、絵本というオリジナリティ溢れる形で伝えている媒体です。町の魅力を「美しさ」と捉え、地域の魅力を様々な世代に分かりやすく、地域内外に向けて発信をされています。土佐町の四季の移ろいを原風景や昔と今の光景の写真を用いて描いており、絵本ならではの温かみのある文章表現で、明瞭かつ簡潔に表現されていました。

また、ジビエや林業を営む方々を取り上げており、地元住民のシビックプライドを醸成しております。そういった点については、地方創生の実現に向けて極めて重要かつ意義深いものと認められるということで、内閣府地方創生推進事務局長賞とさせていただきます。

全国各地において、地域の魅力を活かした持続的なまちづくりや地域活性化に向けた取組を進めるに当たり、その地域に住み続けたい、訪れたいと思わせる情報発信を通じて、今後も、地域密着型メディアが地方創生の重要な役割を担うことを期待しています。(内閣府 評)

## 地産地消文化情報誌「能登」

能登編集部



### 媒体社 PRコメント

今年の正月に起きた能登半島地震。なかなか復興が進まないなかで編集長である私が住職を務める寺も崩壊し、再建はしないことに決めました。一方、まわりの方々から能登編集部に心配の声や応援メッセージがたくさん寄せられ、雑誌の方は継続することを決心しました。復興記念号は、この能登半島地震の記録をしっかりと記憶にとどめ、今後の災害防止に役立てたいとジャーナリク的な視点での大特集といたしました。

石川県はかつて北部の半島エリアの「能登國」と、南部の「加賀國」に分かれていました。能登國の歴史は加賀國よりも古く、今から約1300年前に独立した歴史を有します。2010年秋、独自の歴史や民俗、文化が今も色濃く残る能登の魅力、人や食、歴史や文化などを通して、能登の内外に伝えることで、一人でも多くの人に能登を訪れてもらいたい、そんな願いを込めて創刊しました。今年夏号では、近年目立つ能登への移住者（Iターン・Uターン）を特集。移住者たちには、従来から能登に住む人たちの常識では考えられない発想や価値観があり、その暮らしぶりや考え方から何か大切なヒントを得ることができるように感じます。特集では彼らを通して、高齢化と人口減少に悩む能登の、これからの可能性を探りました。

### 審査会コメント

地方創生は、人口減少が進む中で、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある地域社会・日本社会を維持することを目指しております。

政府として、地方創生の4つの柱である、地方に仕事をつくる、人の流れをつくる、結婚・出産子育ての希望をかなえる、魅力的な地域づくり、に沿って施策を推進しているところです。

それぞれの地域において、地域の豊かな自然や歴史、文化・伝統・産業などの魅力をしっかりと発信していくことは、住民一人ひとりの地域への誇りと愛着の醸成に不可欠であり、地方創生の取組にとって、極めて重要と考えております。そういった点で、民間部門のエントリー作品はいずれも地域の魅力を深掘りし、地域への愛情を持って情報を発信する素晴らしい作品揃いでした。

特に、「能登」編集室の地産地消文化情報誌「能登」は、地域の魅力発信の媒体として、地域を掘り下げて能登の魅力を余すことなく発信しています。春号は、能登地震の特集でしたが、記録媒体という側面でも有意義なものでした。現地での取材に基づき、写真やインタビュー記事、データを始めとした詳細の情報が掲載され、また分かりやすく編集がされておりました。

続く夏号では、IターンやUターンという形で移住された方々が特集されております。内閣府地方創生推進事務局では、東京一極集中の是正に向けて、移住を検討されている方々を、例えば移住支援金という形でサポートさせて頂いております。本誌の取組は、政府の地方創生の取組の方向性と大きく重なるものであり、地方創生の実現に向けて、極めて重要かつ意義深いものと認められるということで、内閣府地方創生推進事務局長賞とさせていただきます。

(内閣府 評)

# ちょうどいいかんじ 三条で暮らす。

三条市



# #ニイハマ

新居浜市



# meets!まつら

松浦市



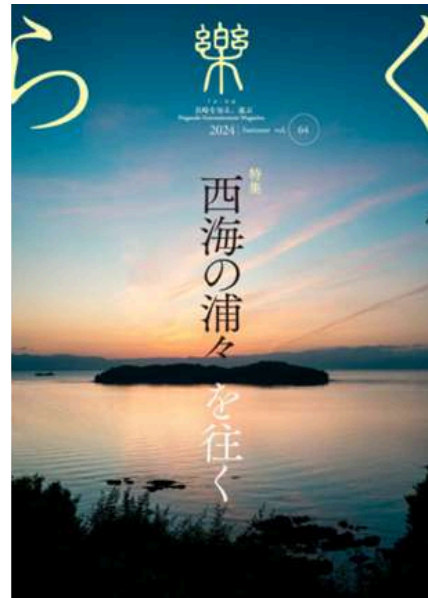
# 地方創生 民間部門 優秀賞



めぐる、  
株式会社あわわ

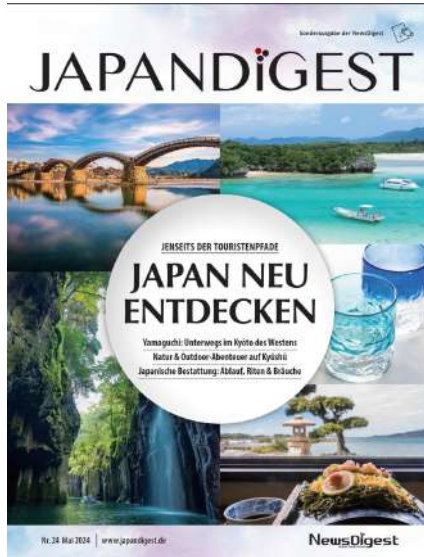


季刊誌 楽（らく）  
株式会社イーズワークス



## JAPANDIGEST

Doitsu News Digest GmbH



### 媒体社 PRコメント

「JAPANDIGEST」はドイツ語で日本の情報を発信するフリーペーパー&ウェブメディアで、ドイツで発行する日本語姉妹誌「ドイツニュースダイジェスト」の特別号として、2012年に刊行されました。現在は季刊誌となり、ドイツ国内の日本食店や日本学科のある大学、日本関連のイベントなどで配布しています。ウェブ版とともに、ドイツで知られざる日本の文化や日々進化する日本の情報を発信中です。2024年4月号のテーマは「新しい日本を発見」。ドイツではまだ知られていない文化遺産や地域に焦点を当てて、旅行先としてぴったりな場所をご紹介します。これからも知的好奇心が旺盛なドイツ語圏読者へ、JAPANDIGEST6万部を津々浦々にお届けしていきます。

日本とドイツ間に横たわる1万キロの距離を、グッと身近にするクロスカルチャー誌として2012年に創刊したJAPANDIGESTは、2016年にドイツ語の日本情報ポータルサイトをオープン。ドイツ語による日本情報発信量では世界最大級であり、いまだ知られざる日本の魅力や奥深さを、ドイツ語圏（主にドイツ、スイス、オーストリア）の読者にお届けします。主に日本のニュースをはじめ、日本旅行、現代社会、伝統文化、モダンカルチャー、ドイツで体験する日本など、さまざまなトピックを毎日配信中。ユーザーの地域属性としては約8割がドイツ国内からのアクセスです。また、編集部の取材をもとに制作する記事タイプの広告は、読了率が高く、読み応えのある記事だと人気急上昇中。購買意欲と知的好奇心が旺盛なドイツ語圏読者向けに、日独編集者が共同でコンテンツを生み出しています。「日本とドイツをつなぐ」媒体として、JAPANDIGESTはこれまで以上に進化します。

### 審査会コメント

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、観光業界は厳しい時期を経験しましたが、2024年に入ってから、インバウンド訪日客は過去最高水準で増えており、力強く盛り返しているところです。この勢いを持続し、発展させていくためには、我が国の持つ魅力を海外に向けて発信していくことが重要です。

海外に向けた発信は英語が中心になっており、さらに、中国語、韓国語など、訪日客が多い国の言語が中心になっていますが、将来的な伸びということを考えれば、現在訪日客が少ない地域に対してもアピールして、日本への旅行需要を掘り起こしていくことが重要です。

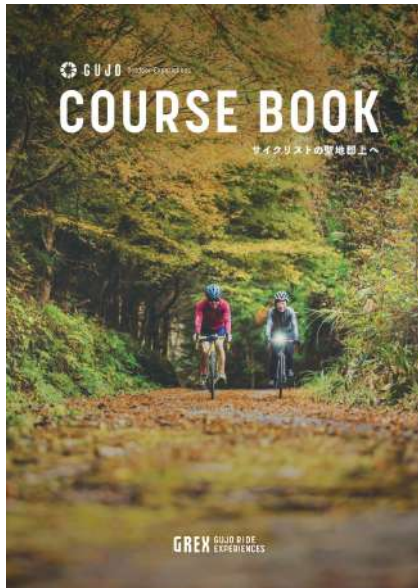
ドイツ語圏に対する情報発信は、現在必ずしも十分ではないところ、本雑誌は、日本の魅力をドイツ語圏に発信する媒体として、将来的な旅行需要の掘り起こしに貢献しているものと考えます。

本雑誌の取組に敬意を表するとともに、この取組を通じて、我が国へのインバウンド観光客が一層増えることを期待しております。（観光庁 評）



## GREX COURSE BOOK

一般社団法人郡上市観光連盟



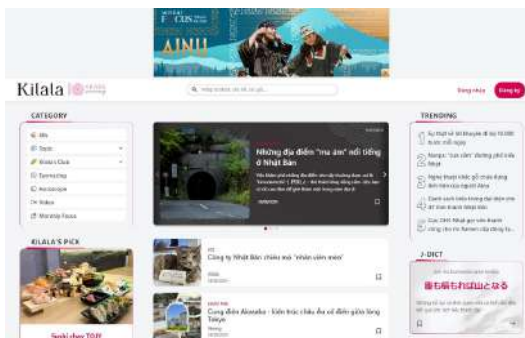
## Kanpai!

Kanpai!



## Kilala

Kilala Communication Co., Ltd.



## フリーペーパー モトクラシー案内所

合同会社ココ企画



### 媒体社 PRコメント

フリーペーパー「モトクラシー」で蓄えた取材力や編集力を最大限に発揮して、地場産業の魅力を伝えたいという想いで制作した一冊が「モトクラシー案内所」です。今後、「産業観光」の一助として成長していくことを念頭に、ツーリストインフォメーションをイメージした表紙デザインとタイトルに仕上げました。旭川家具は「高級家具」という印象が強い為、地元市民の認知度や購入頻度は決して高くないという地域課題を長年抱えています。市民のシビック・プライドを高め、地場産業への親しみを深められるよう、紙質も含めて全体的に優しい雰囲気を整えることで、旭川家具を知る入門編の一冊となることを目指しました。旭川家具の商品カタログではありません。地域のどこに行けば旭川家具と触れられるのか、誰がこの旭川家具を作っているのかを丁寧に紹介しています。「モトクラシー案内所」を読む前と後で、街の風景が変わって見えることをお約束いたします。

### 審査会コメント

モトクラシー案内所は、今一番北海道の中でも注目されてるエリア、旭川・東川のエリアの移住者もすごく増えてる場所であり、その持っている独特のセンスの良さを浮き上がらせてくれるすごいおしゃれなものだと感じました。今、北海道はいろいろな意味で地域の中でも、注目されている場所ですが、自然をベースにする新しいライフスタイルみたいなものが感じられるようなメディアで関心しました。

特別審査員： 隈研吾

## 季刊あおもりのき

合同会社ものの芽舎



## いすむすび

ISUMIエコミュージアム推進部会  
いすむすび編集部



## こせい

ていねい通販



## TOYAMAジャーナル 富山県議会



### 媒体社 PRコメント

県民の皆さんに広く議会の活動を知っていただき、議会の役割や議員の活動への理解・関心を高めるため、TOYAMAジャーナルVol.4を発行した。毎号アンケート調査を行い読者のご意見を取り入れながら、親しみやすい誌面構成を重視した編集を心掛けている。

TOYAMAジャーナルは冊子版・デジタル版を発行し、公民館、図書館等県内の主要施設に配架するほか、議会HPへも掲載し多くの県民の目に触れるようにするとともに、県内すべての高校生等に配布するなど、主権者教育の推進にも寄与している。議員が県内高校等へ直接出向く「出前講座」の際にも活用している。

今回の特集では、実際に「出前講座」に参加した現役の高校生から自由に政策アイデアを出してもらい、それらに対応する県の施策状況を示した。また、質問・答弁ページにそれぞれの議会録画中継にリンクする二次元バーコードを付け、実際の議会を体感できるようにした。

富山県議会では、高校生に県議会を身近に感じてもらうように、毎年「出前講座」を開催しており、県議会議員が実際に高校のクラスで授業を行っている。講座では、税金の用途について理解を深めるために、「クラス全員から1万円ずつ集めたお金の使い道」を考えるグループワークを行った後、規模を大きくして、「富山県民全員から1万円ずつ集めた100億円の使い道」について討論、検討することで、議員の役割を疑似体験し、これから主権者となる生徒たちの選挙や富山県の行政への関心が高まるよう取り組んでいる。議員からは、毎回、非常に感心させられる様々なアイデアが生まれると大変評価されている。「TOYAMAジャーナルvol.4」の特集記事では、令和5年度及び令和6年度に「出前講座」を経験した生徒から出してもらった「100億円の使い道」のアイデアについて掲載するなど、「出前講座」での雰囲気を感じられるよう工夫した。

### 審査会コメント

富山県内全ての高校生に配布されている富山県議会だより「TOYAMAジャーナル」。

発行4号目の特集は、現役高校生たちが考えた100億円あったらどう使う？これは、高校生に県議会を身近に感じてもらう為に、県議会議員が高校のクラスで授業を行う出前講座の取り組みを活用した、リアリティ溢れるコンテンツに仕上がっている。特集の企画を高く評価。また本誌は、このアワードに発行1号目からエントリーし、その度に評価コメントをリクエスト。次の発行号では、アドバイスした点を紙面展開に活かしている点も評価した。

## Petit JP01 2024年5月 <北海道ボールパーク Fビレッジ 2024 SPRING-SUMMER> 株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメント



### 媒体社 PRコメント

話題のスポット「北海道ボールパークFビレッジ」と、北海道発掘マガジン「JP01」がコラボした1冊です。オンシーズン（SPRING-SUMMER）とオフシーズン（AUTUMN-WINTER）の2回に分け発行し、旬の楽しみ方を発信。道の駅など道内外の観光スポットに設置し、遠方ファンの獲得を実現しています。

野球がある日もない日も、365日、24時間、広い敷地内で楽しめるのは、野球観戦はもちろん、グルメもアクティビティも自然も学びもそのほかにも、選ぶのが大変なほど多彩なジャンルが勢ぞろい。1日じゃ回り切れない魅力あふれるFビレッジを、カテゴリーにわけてぐるりと巡る情報を紹介しています。

### 審査会コメント

HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE) は北海道北広島市のFビレッジにあるエスコンフィールドHOKKAIDOを中心として整備されたボールパークエリア。

エスコンフィールドは2024年度の日本マーケティング大賞のグランプリを獲得する大型のプロジェクトであり、野球を見る人以外にも数百万人が訪れている総合エンターテイメント施設として、ビジネス的な成功を収めている。

運営主体である株式会社ファイターズスポーツ&エンターテイメントが発行するこの冊子は、持ち運びに便利なサイズで、特に表紙を開くと見開き3ページでこのエリアが一眼で解る地図のインパクトがあり、読者が持って帰り、保存したいと思わせる工夫が凝らされている。また、ファイターズのコーナーが特に面白く、日本ハムファイターズファンにはたまらない紙面となっている。かなり広いスペースで様々な施設があるので、このようなガイド本があればお客様には便利。企業発信の冊子として、今後も面白い企画で日本ハムファンだけでなく、野球ファンの裾野を広げる為に頑張ってください。

## ジュニアサッカーマガジンVamos 少年サッカー情報舎



### 媒体社 PRコメント

日本で唯一の小学生専門サッカーマガジンです！  
初心者編集部4名で知恵を出し合って、誠心誠意真心込めて製作しています。

1.頑張っている子供たちの姿を形で残したい

私が子どもの頃、新聞に自分の名前が載った際とても嬉しかったことと、記事を切り取り大切に保管している両親の姿を覚えています。そのような喜びを繋げたいと思い子どもたちが無料で手に取れる紙媒体での情報誌を作りました。

冊子に載っている自分自身やお友達、試合で戦うライバルの選手をみながら、家族やチームメイトたちと嬉しそうに笑い合う姿を想像して製作しています。

2.指導の皆様の想いを保護者の方へ届けたい

指導の現場に数年関わらせていただき様々なことを学びました。

情報誌を通し皆様の熱い想いを保護者のみなさまへ伝えていければと考えております。

### 審査会コメント

日本で唯一の小学生専門サッカーマガジン。まず、編集コンセプトが素晴らしい。様々なサッカークラブをキチンとピックアップして紹介している企画も丁寧に取材されていて評価できる。今後のコンテンツとして単にサッカー選手を写真で紹介するだけではなく、「何故サッカーが好き？」、「憧れの選手は？」、「好きな給食は？」、「1年で身長は何センチ伸びた？」、「親から言われて嫌な言葉は？」などの質問に答えてもらい、今のサッカー少年の実態が見えてくるともっと面白いマガジンになるはず。審査員からは各クラブの先輩たちの追っかけ取材「先輩たちはどうしてる？」を読者である親を安心させる企画として是非実現して欲しいとのコメントがあった。いずれにしても、今後の進化に期待したい。

# colors

## 学校法人梅花学園



### 媒体社 PRコメント

本誌は、大阪にある梅花女子大学でメディア表現文化を研究するマスコミ・出版ゼミが編集したものです。2023年度から開講したゼミで、今号が創刊号です。

女子大生が同世代の若者をターゲットに、自分たちの関心のある物事について、広く深く取材し、紹介します。興味のある物事をさらに一步深く、広く、楽しく、わかりやすく伝えることを目指しています。

「colors」という誌名は、編集する学生がさまざまな「色」をもっていること、それが多くの読者とかけあわさってまた別の「色」になることを示しています。

今号は「カフェ」を取り上げましたが、大阪や関西という地域にこだわり、その情報を雑誌（冊子）というメディアに載せ、読者に届けようとするものです。企画、構成、取材、写真撮影、原稿執筆、校正までを自分たちでおこない、プロのデザイナーと協力して制作しています。

### 審査会コメント

ページによっては商品の値段が抜けていたり、地図の文字の大きさが違っていたり細かいミスはいくつか目につくものの、雑誌の完成度は非常に高い。

特にカフェ選びの基準やコーヒーカップのソーサーはなぜあるのか、などカフェに関するコラムのページを地域ごとの区切りに入れている点は他の雑誌も学ぶべき手法で高く評価できる。このコラムはカフェ紹介の特集が単にカフェの情報提供に終わらない面白さと奥深さを読者に伝える。さらにこのコラムが雑誌をめくるときのリズム感を作り、同時に雑誌の個性ともなっている。SNSのようにただ情報を並べるといった情報発信とは異なり、情報を編集するという意識をもって作られた1冊だと思う。

## Run Magazine インカレ雑誌出版サークルRun（早稲田大学）



### 媒体社 PRコメント

私たちは、受験に悩んでいる高校生や、やりたいことが見つからず苦しんでいる大学生に対して、大学生の「今」を伝えることで、「こんな大学生もいるんだ!」「自分もやってみようかな!」と次の一歩を踏み出す勇気になるような『行動のきっかけ』を創りたいと思い、日々制作に励んでおります。

前号のRunMagazine vol.1は50ページでしたが、RunMagazine vol.2では、ページが100ページと倍のページ数となりました。メンバー一人ひとりが1企画をそれぞれ担当し、取材や編集など全ての過程に携わっています。

「大学生の1週間」や「自炊記録」「オタ活日記」など学生ならではの視点での企画が沢山あり、学生の皆さんはもちろん、そうでない方も楽しめる内容になっております。

Instagramやnoteでは、サークルの活動風景が分かる密着投稿やメンバーインタビューも掲載中です!是非投稿をご覧ください!

### 審査会コメント

大学生生活を想像できない高校生や将来を悩んでいる大学生に対して大学生の「今」を発信することで「行動のきっかけ」を創りたいというコンセプトとターゲットのRun Magazine。

これを叶えるために必要な情報を様々な視点から集めたという点は評価できる。

しかし、雑誌はブログとは違う。大量の情報を集めて1冊の雑誌という形にするには、編集者が伝えたい情報がきちんと読者に伝わるような「編集作業」という知的行為が必要である。この雑誌はこの「編集作業」が十分でないことが惜しい。今後のレベルアップを期待して奨励賞とする。



## 劇場版「名探偵コナン 100万ドルの五稜星（みちしるべ）」

名探偵コナン製作委員会



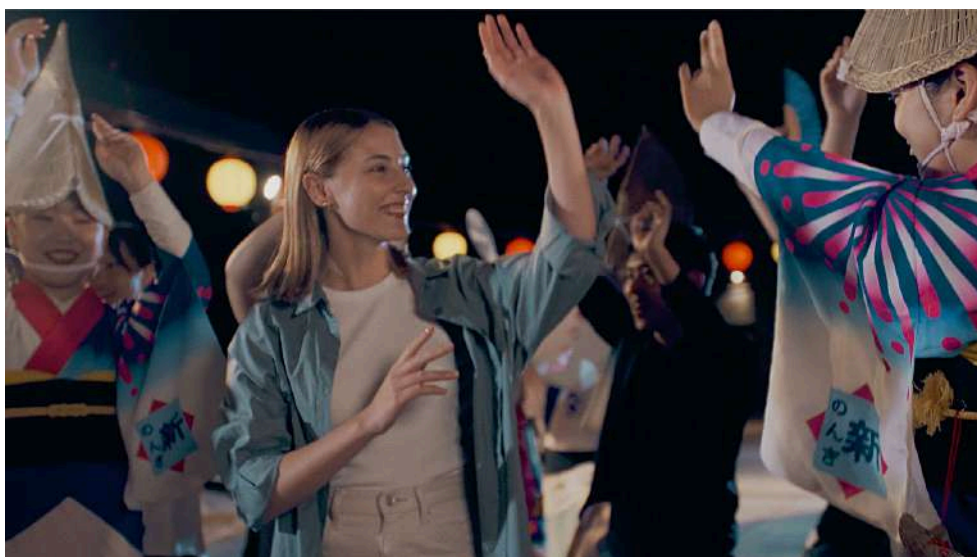
### 審査会コメント

作品の舞台となった地方にどれだけ沢山の人が集まり、エリアの活性化に貢献したかという視点で作品を評価。

6月23日までの公開73日間で、観客動員数1052万人、興行収入150.5億円を記録。邦画史上10本目となる150億円突破の快挙を成し遂げ（興行通信社調べ）、10月までの最新観客動員は1,100万人、興行収入は157億円となっている。舞台となった函館市には、聖地巡礼の観光客が国内外から押し寄せ、賑わいを見せている。新たに設立したアニメ・ゲーム部門の最優秀賞として、地域活性化に貢献している申し分のない作品である。

## DISCOVER THE WONDERS OF SHIKOKU ～WHERE YOU CAN FIND YOUR TRUE SELF～

一般社団法人四国ツーリズム創造機構



上記QRコードよりご視聴いただけます▲

### 媒体社 PRコメント

四国のアドベンチャートラベルの魅力を発信するため動画を制作しました。アドベンチャートラベルとは、「アクティビティ・自然・文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行」で、アクティビティを通じて地域の自然・文化を体験することにより、旅行者自身が、未経験の多様な価値観に触れ、旅行者自身の内面に変化をもたらされるような旅行スタイルです。動画は、訪日旅行経験のない女性主人公と、訪日旅行経験があり、まだ知らない日本を知るため四国を訪れる男性主人公のタイプの異なる2人が、四国のアドベンチャートラベル体験を通して、「自己変革」をするストーリー性のあるシネマティックな動画となっています。四国の美しい自然の中でのアクティビティや伝統文化体験、四国遍路など、四国のアドベンチャートラベルの魅力が詰まった動画です。2人の主人公の表情の変化に注目しながら、ぜひご覧ください。

### 審査会コメント

優れた映像作品は言葉による説明が無くとも一見するだけでメッセージを理解することが出来る。この作品はそれを見事に実現している。グローバルメディアを利用した映像表現によるPRではこの点が特に重要となるだろう。近年YouTubeでは多数の観光名所の案内動画がアップされているが、この作品はそれらの中でも特に優れた作品と言える。

## 県公式移住サイト 「わかやまLIFE」 和歌山県庁



## やすけくやすぎ 安来市



## 雲仙市ふるさと納税特設サイト 一般社団法人雲仙観光局

